

《履修上の留意事項》面接実習のみ実施

《担当者名》○教授／越智 守生 准教授／広瀬 由紀人 講師／仲西 康裕
 助教／仲西 和代 助教／山口 摂崇 助手／山田 哲郎 助手／三上 進
 非常勤講師／秋馬 秀成 非常勤講師／前田 幸宏 非常勤講師／肥後 文章
 非常勤講師／松原 秀樹 非常勤講師／加々見 寛行 非常勤講師／高島 成悟
 非常勤講師／松本 弘幸 非常勤講師／神田 秀治 非常勤講師／柳 智哉
 非常勤講師／國安 宏哉 非常勤講師／兼田 陽介 非常勤講師／越智 眞理
 非常勤講師／田村 直 非常勤講師／高薄 紀男 非常勤講師／仲井 太心

【概 要】

講義で理解した橋義歯補綴学治療を少数歯欠損症例に適応されるブリッジの作製、少数から多数歯欠損まで適応される口腔インプラント治療を行う際の基本手技を習得する。その際、人間の顎咬合機能を理解するために半調節性咬合器の仕組みと使用方法について理解する。さらに、患者の口腔内を想定したシミュレーション顎模型を使用して、支台歯形成及び暫間被覆冠の作製を習得する。光学印象方を体験し手技や特性を習得する。

【学習目標】

半調節性咬合器の取り扱いを実施する。顎運動に関する基礎知識を説明する。
 橋義歯補綴診療における一連の基本的診療術式を説明する。
 橋義歯補綴診療における一連の基本的技工操作を説明する。
 橋義歯補綴診療における一連の基本的診療術式を実施する。
 橋義歯補綴診療における一連の基本的技工操作を実施する。
 口腔インプラント診療における一連の基本的診療術式を説明する。
 口腔インプラント診療における一連の基本的技工操作を説明する。
 光学印象の特性を理解し術式を実施する。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1 5 6	臼歯部ブリッジ 半調節性咬合器 の作製	- 咬合理論 - 咬合器の種類 - 半調節性咬合器の使用法 - チェックバイト採得 - 半調節性咬合器装着、調節 - 支台歯 (Abutment teeth) 5: 生活歯 (Vital tooth) を想定 7: 生活歯 (Vital tooth) を想定 - 支台装置 (Abutment piece) 5: 4/5冠 (Four fifth crown) 7: プロキシマルハーフクラウン (Proximal half crown) - 架工歯 (Pontic): 6 離底型 (Sanitary type) - 連結部 (Connector): 6 7 鑲着法 5 6 ワンピース法 上記要領による下顎臼歯部固定性架工義歯 (Mandibular posterior fixed bridge) を作製する。 - 既製の模型の装着 「クラウンブリッジ補綴学実習」 - 作業用模型を半調節性咬合器に装着する。 - 既製のメタルコーピングの試適調整 (5 4/5冠、 6 ポンテック、 7 プロキシマルハーフCr) - 咬合面コアの採得 - 鑲着 鑲着のための埋没を行う。パラフィンワックスでボックスングを行い、鑲着用ブロックを作る。鑲着の範囲は実習書を参照し、コンタクトポイントを中心に約2～	越智 守生 広瀬 由紀人 仲西 康裕 仲西 和代 山口 摂崇 山田 哲郎 三上 進 非常勤講師

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
		3mmの円形に鑑着する。必要以上に流してはいけない。 • 試適・研磨・完成 冠内面の異物の有無を確認してから、模型に試適する。 研磨は鑑着部を主として修正・研磨する。仕上研磨後オリジナル模型に適合させ提出する。 ○「クラウンブリッジ補綴学実習」 F-3-4)-(2) , , , , ,	
7 (11	臼歯インプラント埋入実習	• 診断用模型の製作 エポキシ模型の概形印象を行う。模型分析のうえ補綴設計を行い、インプラント体の埋入位置を決定する。 • サージカルステントの作製 インプラント床形成のガイドとしてサージカルステントを作製する。 • インプラント体の埋入 エポキシ模型にサージカルステントを使用し、インプラント体の埋入を行う（ボーンレベル、ティッシュレベルの2種類）。 • 印象採得 個人トレーを製作し、印象用トランスファーコーピングを用いて、オーブントレー法及びクローズドトレー法でインプラント体の印象採得を行う。 • 作業用模型製作 シリコンガムを付与した作業用模型を製作し、咬合器装着を行う。 F-3-4)-(4)	越智 守生 広瀬 由紀人 仲西 康裕 仲西 和代 山口 摂崇 山田 哲郎 三上 進 非常勤講師
12 (15	マネキンを利用したの支台歯形成 支台形成、暫間被覆冠の作製 1、6の支台歯形成及び1の暫間被覆冠の製作	• ターピンを用いた生活歯支台歯形成を行う。 • 6の全部鑄造冠に対する支台歯形成 • 1の前装冠に対する支台歯形成 • 1支台歯に対する暫間被覆冠の製作 F-3-4)-(1)	越智 守生 広瀬 由紀人 仲西 康裕 仲西 和代 山口 摂崇 山田 哲郎 三上 進 非常勤講師

【評価方法】

各課題に小テスト（15％）、平常点（15％）を加味し、作品の出来（70％）を評価する。最終的には合計で60％以上で合格とする。

【備考】

教科書：「クラウンブリッジテクニック第2版」三浦宏之 ほか 編 医歯薬出版株式会社
「クラウンブリッジ補綴学実習」北海道医療大学歯学部 クラウンブリッジ・インプラント補綴学分野
「口腔インプラント学実習書」公益社団法人 日本口腔インプラント学会 編 永末書店

【学習の準備】

- 指定した教科書の該当ページを事前に読み、疑問点を整理する（15分）。
実習開始時に前回までの講義・実習内容に係る小テストが実施されるので復習する（15分）。
受講する前に各学習項目の実習範囲を予習しておくこと（予習：30分、復習：30分）。
・実習を休むと大幅に進行が遅れますので体調管理に気を付ける。
・清潔な白衣を着用すること。医療人として相応しい身だしなみで実習に臨む。
・実習室へは白色の上履きを履くこと。白色以外上履きでの実習室への入室は認められない。
・実習器材は毎回確実に準備すること。実習器材が不足すると実習を進行することはできない。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1.人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療の技術を歯冠補綴学の観点から修得する（専門的実践能力）。
DP2.「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を歯冠補綴学の観点から身につける（プロフェッショナリズムとコミュニケーション能力）。
DP3.疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力を歯冠補綴学の観点から身につける（自己研鑽力）。

【実務経験】

《歯科医師》越智守生、広瀬由紀人、仲西康裕、仲西和代、山口摂崇、秋馬秀成、前田幸宏、松原秀樹、加々見寛行、高島成悟、松本弘幸、神田秀治、柳 智哉、國安宏哉、兼田陽介、越智 眞理、田村 直、高薄 紀男、仲井 太心

【実務経験を活かした教育内容】

橋義歯補綴学は、歯質の欠損を機能的、形態的回復を通じて、患者の生活の質の向上につながる学問である。開業医、勤務医として実務に携わる臨床経験10年以上歯科医師で、博士（歯学）の学位もしくは補綴歯科学会専門医資格の有する者が非常勤講師として歯冠補綴学診療における患者対応・注意事項について教育を行っている。